



## 東京オリンピック・パラリンピックの年に健康づくりスポーツ特別委員長に就任。

8年前、黒川市議はよこはま自民党の会議の中で、ラグビーW杯や東京オリンピック・パラリンピック（以下東京オリパラ）が話題になり始める中、健康面については健康福祉局や医療局、スポーツについては市民局や教育委員会、運動施設については環境創造局など、担当部局が別々で全体的な政策がうまく機能していないと指摘し、新たな特別委員会の設置を提案しました。黒川市議の提案をきっかけに翌年の平成26年に新設された『健康づくりスポーツ推進特別委員会』では、総合的なスポーツ行政や健康づくり政策を推進するために、多くの課題について議論をしてまいりました。

一年遅れで東京オリパラが開催された今年、特別委員会としての集大成としてこれまでの議論をまとめるため、黒川市議は『健康づくりスポーツ推進特別委員会』の委員長を拝命しました。

これまで7年間の議論と、ラグ

ビーW杯や東京オリパラのレガシーも含めて、今後の横浜市のスポーツ行政の方向性をしっかりまとめていこうと、委員会のメンバーに対して委員会のマニフェストを提示させていただきました。議会も新しくなり、委員会室には大きなモニターが常設されており、6月に行われた初委員会では黒川委員長は横浜市会では初めて、パワーポイントを活用して一年間の委員会の進め方をプレゼンテーションしました。

現代のスポーツは、観る・感動する・体験する・打ち込む・目指す・応援する・着こなすなど、その発信方法や関連ビジネスも含めて多岐にわたります。トップチームやアスリートから生涯スポーツ・少年少女・障害者スポーツまでその野も広がっています。プロレベルのトップチームが野球・サッカー・ラグビーなど男女も含めて市内に10チーム以上ある現状の中で、チームや市民に対する支

援や、チームの地域貢献や社会貢献活動、施設の整備など課題は多岐にわたります。施設も老朽化や陳腐化が進み、都心や副都心に集中しているという課題があるとともに、既存の大型公園や米軍跡地などへの新設の要望もあります。

また、多岐にわたるスポーツや健康に対する政策をまとめる行政組織や、スポーツをしたい人たちの要望にワンストップで応える仕組み、長期的に世界レベルのスポーツ大会を招致する組織体も横浜がスポーツ先進都市と呼ばれるためには不可欠な要素です。

特別委員会の委員長には、議論すべき内容や課題を議題として提供する役割があります。東京オリパラをきっかけとしてスポーツがもたらすレガシー、市民全体の健康づくり、スポーツを通じたまちづくりなどについて、あらためて幅広く議論してまいります。

### 競技施設の課題

健康づくりスポーツ推進特別委員会R3

屋外施設 日産スタジアム・ニッパツ三ツ沢球技場→サッカー・ラグビー・アメフト  
横浜スタジアム・保土ヶ谷・横浜薬大スタジアム（保野公園）  
瀬谷本郷公園→硬式野球  
屋内施設 横浜アリーナ・文体（サブアリーナ）・横浜国際プール  
KOSE新横浜スケートセンター・横浜銀行アイスアリーナ・びあアリーナMM

### 老朽化・陳腐化・都心副都心に集中

公立学校の開放や大学や企業の保有する施設の活用も検討すべき  
校庭（夜間照明）・陸上トラック・野球場・サッカー場・体育館・プール等

### 大学・企業等の施設の活用と大規模公園のリニューアルや米軍施設跡地の活用

パークPFIやネーミングライツなど民間活力で次世代型の恒久施設を  
リソルの森（千葉県）のような滞在型大規模運動施設  
グランピング・合宿施設・スポーツメディカル・トレイルランコース  
地域総合型スポーツクラブに発展させる（ドイツ・スペイン型）  
災害時には大型の防災拠点として機能

### 横浜スポーツコミッションの必要性

健康づくりスポーツ推進特別委員会R3

- 1.横浜でスポーツの大会を行いたい人にワンストップで応える仕組みづくり
  - 2.横浜で世界レベルのスポーツ大会を誘致する
- ### MISSION

トップアスリート・シニア・アマチュア・障害者・ジュニア  
健康づくりの大会も含め、あらゆるレベルの大会に対応

会場手配・審判紹介・運動用具・お弁当・宿泊・記念ウェア・記念品  
トロフィー・ボランティア・カメラマン・ウェブサイト作成  
場内MC・チケット販売・スポンサーシップ・救急対応  
カーボンオフセット・ジェンダーフリー対応

スポーツの汗と感動と友情と乾杯

## 大会開催都市として選ばれる横浜市に

スポーツツーリズム・経済波及効果の測定

# 市民からの提案を横浜市政に反映させる仕組みを作りました 横浜みらい創生プラットフォームの挑戦。

## きっかけは 住民投票条例の否決

住民投票という仕組みは、ひとつの政策課題をイエスカノーという二者択一で決定してしまい、市民から選ばれた議員による議会で議論を尽くして結論を導き出していく議会制民主主義の手法とは異なるものです。市民にその中身を示さないままで「IRの設置に関する住民投票」を進めることは出来ない、市民からの提案を否決したことをきっかけに黒川市議は、市民の意見を市政に活かす手法について調査研究をした結果、スペインのバルセロナ市で開発された decidim という手法が有効ではないかと考え、みなとみらいでその実証実験をしていた(株)電通国際情報サービスを同僚議員と訪問し、パートナーとして調査研究を進めることにしました。

## 新たな試みに対する よこはま自民党の寛容さ

スペインのバルセロナで成功している decidim とは、ウェブサイト上のプラットフォームで、大きな政策課題について市民から様々な提案をしてもらい、その提案に対して様々な意見をいただき、取り上げるべき政策についてさらに議論を重ね、必要に応じてワークショップやパネルディスカッションなどを行い、政策として形を整えて市民から提案された政策を実現するというものです。まずはよこはま自民党の仲間の議員に説明をして納得してもらい、新しい政策実現の手法として実践しながら

研究を重ねていくことの同意を取り付けました。



## 脱炭素条例に対する 提案募集からスタート

バルセロナ市の decidim は包括的な市の予算原案から市民の意見や提案を求めるものでしたが、横浜でまったく同じようにを進めるのは難しいとの意見もありました。

よこはま自民党では、昨年の秋に菅総理が発表した 2050 年までに二酸化炭素の排出をゼロにしようという政策を受けて、「横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例」の議員提案による制定を同僚の山下市議が中心になって進めていました。この条例の制定を受けて、条例に基づく政策を市民から提案してもらい、それを実現するという方法が最も現実的な、市民提案を実現することに繋がる手法だろうと考え、山下市議や関勝

則政調会長、鈴木太郎団長らと議論を進めました。脱炭素社会の実現、地球温暖化対策、再生可能エネルギーの政策は、行政だけでなく専門に取り組んでいる市民団体や事業者が様々なアイデアを持って取り組んでいたりと、行政からの支援や企業間の連携・マッチングが求められます。

6月4日の市会定例会最終日に条例が制定されると、その翌週に記者発表を行い、よこはま自民党としての『横浜みらい創生プラットフォーム』がスタートしました。



## スタート3週間で 多くの提案が集まる

仲間の自民党議員にも協力してもらい、市内各地のリビングラボや、おたがいハマ、横浜スタンダード協議会などの民間のシンクタンクや市民団体や市内の各大学にも声をかけて多くの人が新規に登録をしてくれました。

## 新鮮グルメで横浜18区巡いを

横浜市役所 2 階のレストラン『TSUBAKI 食堂』では月替わりで 18 区の食材を使ったセットメニューを提供してくれており、7 月は金沢区でした。小柴の小山さんの新鮮野菜や、アマンダリーナの青みかん、永島農園のきくらげ、金沢八味唐辛子、サクラ印の蜂蜜など、地元の食材がたっぷり使われたピザやオムレツは瀬ヶ崎



小学校の子供たちが考えてくれました。

椿シェフには黒川市議も食材を紹介したそうですが、ぜひ各区のメニューを食べ比べてみてください。

私たちが市民に提案した議題は4点です。まずは「横浜市脱炭素条例について話し合おう」という議題を示し、次いで「建物の省エネを進めるには?」「エネルギーの地産地消を進めるには?」「横浜市内の再エネ比率を高めるためには?」と、全部で4つの議題に対して様々な提案をいただきました。

## 30件を超える提案は市民の関心の高さの反映

市民のみなさんからの提案は35件も集まりました。太陽光発電+蓄電池を各家庭や公共施設に設置するための助成金や補助金の提案、特別な地域を設定してモデル地区として再生可能エネルギーの普及促進を図ろうという政策、新技術や新製品によって脱炭素化を推進しようという政策、電力流通の仕組みや電力売買の手法の新たな提案など、具体的で実用的な提案もたくさんありました。

## よこはま自民党の取り組みを全国の地方議会関係者に発信

7月7日には、黒川市議が大会役員を務める全国地方議会サミットが早稲田大学大隈講堂で開催され、よこはま自民党の鈴木太郎市議が、議会DXの取り組みのセッションで『横浜みらい創生プラットフォーム』を紹介し、多くの大学の研究者や全国の議会関係者から、新しい市民意見集約の手法として注目されました。7月15日には横浜国立大学の氏川ゼミの学生さんたちから感想や提案をいただく機会も作りました。



7月17日には、横浜市役所の市民協働推進センターを会場にして『横浜みらい創生プラットフォーム・オープンセッション』として、ご提案いただいたみなさんに集まっていただき、ZOOMで参加してくれたみなさんとともに、提案の説明や意見集約の機会を設けさせていただきました。



## 市民と作った政策として議会の場での議論が始まる

今後はいただいた意見から具体的な政策になりそうな提案をさらに具体的な政策としてブラッシュアップしていく作業に入ります。9月から始まる議会の常任委員会や決算特別委員会の場を通じて、

市民のみなさんからの意見として行政当局に対して私たち議員が具体的に質疑を行ない、市民に代わって提案をし、行政が取り上げることになれば、来年度の予算に反映されます。まさに、市民の提案から生まれた政策が私たち議員を介して実際の政策として実現していくことの事例を生み出すことになるのです。

## プラットフォームでの議論は新たな展開へ

今後はこのプラットフォームを通じて私たちがこれまで議員提案によって成立させた様々な条例に対して、市民からの提案を集約して政策に反映させていきたいと黒川市議は考えています。

現在進めている『横浜市子どもを虐待から守る条例』の改正に対しても新たな提案を市民から集め、子供たちの命を守る政策に活かしていこうと考えています。また、ご意見や提案、アクセス数や属性なども様々なデータ解析し市民の関心を分析することもできます。黒川市議が進めている横浜自民党の新しい政策実現の手法に対してご期待いただき、市民からも多くの提案を上げて欲しいと黒川市議は語ってくれました。

## 横浜市の議会改革度ランキングは全国何位?

早稲田大学マニフェスト研究所では、毎年全国議会改革度ランキングを発表しています。横浜市は全国約1700の区市町村の中で2018年は278位、19年は266位でした。

黒川市議は、新しい議会に引越した2020年は順位を上げるチャンスと捉え、横浜市会議会局のスタッフとアンケート調査を精査して提出した結果、何と全国36位にジャンプアップしました。電子投票システムや、親子傍聴席の設置・議会

図書室・議会生中継などがハード面での新たな評価で、市会ホームページ・政策法務担当の設置・議会BCPなどがソフト面で評価されました。

20政令市の中でも13位→8位→3位、県内の自治体でも12位→15位→3位と順位が上がりました。引き続き、議会改革を前進させていくと黒川市議は話してくれました。

2020年政令市ベスト5

1位	堺市	全国22位
2位	大阪市	全国33位
3位	横浜市	全国36位
4位	北九州市	全国50位
5位	相模原市	全国62位

2020年県内ベスト5

1位	横須賀市	全国18位
2位	茅ヶ崎市	全国28位
3位	横浜市	全国36位
4位	藤沢市	全国55位
5位	鎌倉市	全国58位



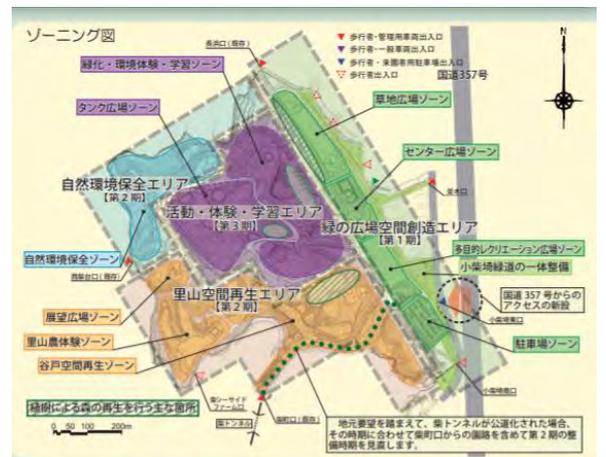
# 小柴自然公園、全体の3%ですが待望のオープンです!

7月30日、造成中の小柴自然公園の1期工事、草地広場ゾーンがオープンしました。全体の敷地面積は53ヘクタール、そのうちの1.5ヘクタールが市民に開放されます。最終的な全面オープンは10年以上先という計画ですが、長期にわたる工事になるので柔軟に進めて欲しいと思います。

広々とした芝生は40年前の埋め立て以前は海面で、丘になっている部分が切り立った海岸線でした。公園の前にある並木第4小学校の子供たちが名付け親の『並木わくわく橋』からの景色も素晴らしく、新たなランニングコースに取り込みたいと黒川市議も楽しみにしています。子供向けの楽しい遊具や、金沢区の八名木を鑑賞できる場所、大人向けの健康器具などもあり、地域のみなさんの憩いの場となることと思います



昨年は丘の上の3期工事の場所で不幸な事故がありました。引き続き安全に工事を進めてもらいたいと思います。基本計画を策定してからすでに8年が経ち、完全オープンまでにはまだ10年以上ある中で、これからの時代に合わせた計画の修正も必要ではないでしょうか。東京オリンピックでもスケートボード選手が大活躍しましたが、スケートボードやボルダリング、BMXなどが楽しめる新たな施設も、未来のオリンピックのために各区で検討すべきだと黒川市議は語ってくれました。



## 多様性を認め合う社会の実現に向けて

横浜市聴覚障害者協会の方々とともに『咲む』という映画の上映会を金沢公会堂で開催しました。障害があっても、お年寄りでも、都会に住まなくても、誰もがしあわせになれる社会、お互いに認め合える社会を目指そうと、映画は感動の涙とともに教えてくれます。当日はコロナ禍の中200人以上に会場いただき、早瀬憲太郎監督には舞台挨拶を頂きました。



## 不幸な事故を繰り返さぬために

5月18日、富岡駅近くで小学生の死亡事故が発生してしまいました。事故の直後から黒川市議は自民党金沢区支部の支部長として、情報を収集するとともに、高橋のりみ市議、大村ゆう県議とともに横浜市の乾道路局長・鯉淵教育長を訪問し、再発防止のためのカラー舗装や、ガードレールの改修、児童や関係者の心のケアなどを要望書にまとめて提出しました。再発防止を願い、幼い故人のご冥福を祈ります。



市民に開かれた、わかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市議員に対する期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。

.....

.....

.....

いただいた連絡先はお返事をさせていただきます  
 いただく以外には使用いたしません。

お名前・ご連絡先

返信FAX 045-786-4310 または masaru-k.net@hb.tp1.jp